

平成28年度
自己点検・評価書
(学校評価報告書)

大阪教育大学附属天王寺小学校

1 現況

(1) 学校名

大阪教育大学附属天王寺小学校

(2) 所在地

大阪市阿倍野区松崎町 1 - 2 - 4 5

(3) 学級数

1 8 学級 (1 学年 3 学級)

(4) 児童数

6 3 6 名 (男子 3 2 0 名 女子 3 1 6 名)

(5) 教職員数

校長 (併任) 1 名, 副校長 1 名, 主幹教諭 1 名, 教諭 2 4 名 (うち, 臨時的雇用 2 名), 養護教諭 1 名, 非常勤講師 5 名, 事務職員 1 名, 臨時的用務員 1 名

2 特徴

本校は, 大阪教育大学の附属する小学校で, 教育基本法及び学校教育法に基づいて義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なものを行う。

3 役割

- (1) 大学と一体となって, 教育の理論と実際に関する研究を行う。
- (2) 大学の教育実習機関として, 実習生を随時受け入れ, 適切な指導を行う。
- (3) 教育に関する理論を研究し, 教育実践に役立てる。
- (4) 現職教員に研修の場を提供する。

4 学校教育目標

個が生きる学校

- ・ 自他の人格を尊重し, 実践力のある子
- ・ 生命を尊重し, 健康で安全につとめる子
- ・ みんなと協力してしごとのできる子
- ・ 自分でよく考え, すすんで実行できる子
- ・ ものごとを最後までやりとおせる子
- ・ きまりを守り, 明るくくらせる子

5 平成28年度 重点目標，具体的な取組内容，評価結果

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

本年度の 重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
教科教育 (学習指導) ・保護者の学習に対する理解を得て連携を図り，各教科の学習内容の確実な定着をめざす。	<p>【取組内容】ノート指導を中心として，きちんとできるようになるまで繰り返し取り組ませるとともに，その児童の学習の取り組み方や友だちとの関わり方の成長を適宜称賛することで有能感を高めるようにする。</p> <p>また，集会や個人懇談会の場で，学習面についての具体的な内容を伝え，理解が得られるような場を設定し，保護者との連携を図り，学習内容の確実な定着をめざす。</p> <p>【評価規準】本校の学習への取り組みについて，保護者が理解できたと回答する割合が9割以上でA，8割以上でB，7割</p>	<p>教員は，「十分に理解が得られた」「ある程度得られた」を合わせて100%，保護者は，「十分に理解ができた」「ある程度理解ができた」を合わせて92%であった。また，児童は，低学年では，授業を楽しみ，「自分から家で話をしたり，ノートを見せたりしている」を合わせて65%，中学年では，自分の思いや考えを書いたノートづくりを楽しみ，「家の人にもノートをよく見せている」を合わせて82%，高学年では，</p>	<p>8%の保護者が，本校の学習への取り組みについて，「あまり理解できなかった」「ほとんど理解できなかった」と答えている。また，低学年では，31%の児童が，「学校の授業のこ</p>	B	<p>先生方の普段の学級経営や集会の進め方で，保護者の信頼度は変わってくるのではな いか。保護者へどのように伝えるのが大切 である。</p>	B	<p>ノート指導については，ここ数年定着しつつあると考える。あとは，保護者に集会や個人懇談会の場で，保護者とどのような連携を図るべきかが大切である。</p>

	以上でC, 6割以下でDとする。	自分の思いや考えを書いたノートづくりを創意工夫することを「楽しんでいる」「心がけている」を合わせて86%であった。さらに、75%の児童が「勉強がよくわかって楽しかった」と答えている。	とを、お家の人に聞かれたら、話をしたり、ノートを見せたりしている。」と答えている。				
学級経営 ・互いの存在を尊重し合える学級作りに努める。	<p>【取組内容】「Q-U」アンケートの結果をもとに、各学年とその学年に関わる教員とで連携を図り、個に応じた指導をするとともに、関わり方の成長を適宜称賛することで有能感を高めるようにする。</p> <p>また、集会や個人懇談会の場で、保護者との連携も図り、学級運営についての理解が得られるようにする。</p> <p>【評価規準】「Q-U」アンケート(6月、10月、2月の計3回実施)を使って、各学年とその学年に関わる教員とで共通理解を図り、手立てを講じて改善することができる。</p>	<p>教員は、「学年当初よりも改善することができた」は85%、保護者は、担任の学級経営について、「十分である」「概ね十分である」を合わせて89%であった。また、児童は、学級のさまざまな場面で、「なかよく協力することができた」「協力することができた」を合わせて91%、困っているとき、やさしくされたことに、「よく気が付いた」「ときどき気が付いた」を合わせて94%であった。</p>	<p>11%の保護者が、学級担任の学級運営について、「やや不十分である」「不十分である」と答えている。</p>	B	<p>教科教育の項目と同様に、保護者への伝え方によって、学級経営を理解してもらえないか。</p>	B	<p>集会の場でどのような話をするのか、年間を通してどのような進め方をするのかを共通理解する必要がある。</p>
生活・安全 ----- 清掃活動 ・学校を美しくするため、	<p>【取組内容】清掃における自分の役割を自覚し、友だちと協力して清掃活動を進めることができるように指導する。</p> <p>【評価規準】自分の担当場所を、友だちと協力して清掃できた。</p>	<p>教員は、「清掃方法の徹底ができた」「概ねできた」を合わせて100%、責任をもって清掃活動に取り組めるように支援を、「十分にすることができた」</p>	<p>7%の保護者が、「学校があまり美しいとは言えなくなった」、10</p>	B	<p>たてわり清掃が今年度からなくなり、そのよさはあったとは思いう。しかし、真面目に取り組む子とそうでな</p>	B	<p>行事の絡みで清掃活動が実施できなかったり、学年の都合で実施できなかったりするこ</p>

<p>責任をもって清掃活動ができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の役割を自覚し、友だちと協力して清掃することができる。 		<p>「概ねすることができた」を合わせて95%、保護者は、「学校が前よりとても美しくなった」「前より美しくなった」を合わせて73%、子どもの清掃活動に取り組む姿勢は、「責任をもって清掃ができるようになった」「概ねできるようになった」を合わせて33%であった。また、児童は、「がんばって掃除してきれいにできた」が74%、友だちと協力して、「きれいになるように掃除をした」を合わせて97%であった。</p>	<p>%の保護者が、「掃除ができていない」と答えている。また、26%の児童が、担当の場所を「掃除したがあまりきれいにできなかった」「あまり掃除できなかった」と答えている。</p>	<p>い子がいるので、常に清掃指導は大切である。</p>	<p>とがないように、形式的な清掃活動にならない工夫が必要であると考えられる。</p>
<p>校内安全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動場の遊びや過ごし方を考え、けがをしない安全な過ごし方を身につけることができるようにする。 	<p>【取組内容】運動場において休み時間と放課後の過ごし方について、できる遊びやできる場所を明確にしたり、一緒に遊んでいる先生の指導の下に安全に過ごすことができたりするよう指導する。</p> <p>【評価規準】休み時間や放課後はきまりを守って安全に過ごすことができる。</p>	<p>教員は、「休み時間や放課後は安全に過ごすことができるよう指導した」「概ね指導した」を合わせて95%、保護者は、子どもの遊びにおけるけがは、「以前に比べて少なくなった」が38%であった。また、児童は、休み時間や放課後は遊ぶ場所や時間を守って、「安全に遊ぶことができた」「けがに気をつけて遊ぶことができた」「遊ぶことができた」は合わ</p>	<p>4%の保護者が、子どもの遊びにおけるけがは、「以前より多くなった」と答えている。</p>	<p>B</p> <p>けがや保健室の来室は多いと思われる。時代の流れの中で、どこまで保健室で処置すべきかを考える必要がある。</p>	<p>B</p> <p>学校全体で共通理解が必要であると考えられる。各教室に救急セットが用意されているので、ある程度は担任が対応すべきである。</p>

<p>下校指導 安全に過ごすために、下校時の態度に気をつけることができるようにする。</p>	<p>【取組内容】生活・安全部を中心に下校時の児童の様子を実態調査し、周囲の安全に気をつけながら歩くことができるように声かけをしながら継続的に指導をする。 【評価規準】下校時に、周りの人に迷惑をかけないように、周囲をよく見て安全に歩くことができる。</p>	<p>せて98%であった。 教員は、児童に下校時刻を守らせるように、「徹底することができた」「概ね守らせることができた」を合わせて100%、周囲に注意しながら安全に下校させるように、「年間を通して指導することができた」「概ね指導することができた」を合わせて96%、保護者は、「周りの安全に気をつけながら登下校することができていた」が45%であった。また、児童は、「周りの様子に気をつけながら、安全に下校することができた」が71%、「下校の時刻を確認し、毎日守ることができた」「守ることができた」を合わせて91%であった。</p>	<p>9%の保護者が、「周りの安全に気をつけながら登下校することができていなかった」、9%の児童が、下校の時刻を、「あまり守ることができなかつた」「全く守ることができなかつた」と答えている。</p>	<p>B</p>	<p>保護者の路上駐車や登下校の歩き方や電車での過ごし方で苦情があると思われる。保護者のマナー向上と意識が必要ではないか。</p>	<p>B 生活安全部を中心に、登下校指導は実施している。今後は、保護者に向けたマナー向上の意識改革が必要であるので、集会等で呼びかけを継続的にする必要はある。</p>
<p>健康教育 保健指導 ・衛生意識を高める。</p>	<p>【取組内容】担任及び保健委員会の活動と連携して、給食準備中の身支度や持ちものの調査を行い、定期的に結果をまとめ、学級や朝礼で啓発する。 【評価規準】 ・保健委員会によるハンカチ・マスク・ティッシュの調査を適時行い、できてい</p>	<p>教員は給食準備中の身支度や手洗いの指導で、「多くの児童ができるようになった」「できるようにになった」を合わせて100%、ハンカチ・マスク・ティッシュの持ちものの指導で「多くの児童が持ってくる</p>	<p>10%の保護者が、保健・給食指導の取り組みについて、「やや不十分である」「不十分であ</p>	<p>B</p>	<p>時代の流れの中で、ハンカチを持たないことが多いと思われる。机の横にハンカチ・タオルをおいている学校も多いのではないか。</p>	<p>B トイレや給食前に手洗いを励行する必要がある。ハンカチ・ティッシュはランドセルに入れておくのではなく、常に身につ</p>

	<p>る児童の割合が9割以上である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任による手洗い，エプロン・マスク ・三角巾着用の指導を行い，できている児童の割合が9割以上である。 	<p>ようになった」「持ってくるようになった」を合わせて86%，保護者は，保健・給食指導の取り組みについて，「十分である」「概ね十分である」を合わせて90%であった。また，児童は，給食の準備について，「もともとできていた」「できるようになった」を合わせて95%，持ちものについて，「持ってきていた」「持ってくるようになった」を合わせて92%であった。</p>	<p>る」，8%の児童が，持ちものについて，「あまり持ってきてこなかった」と答えている。</p>			<p>けておく指導が必要であると考え</p>	
<p>その他 ----- 業務見直し ・学校行事 ・PTA活動</p>	<p>【取組内容】今年度，労働時間縮減に対する業務の見直しを行う。学校行事を含めた教員の業務を整理し，来年度につなげる。また，PTA活動についても同様に行う。</p>	<p>出版物の発行回数を減らしたり，18時以降の留守電対応にしたりして，教員の労働時間縮減の対策をした。また，PTA活動についても，次年度に引き継ぐものを精選し，よりよいPTA活動が展開できるように取り組みを始めている。</p>	<p>学校行事やPTA活動を精選し，教員と保護者がよりよく連携を図ることができるように，今後も業務の見直しをしていく必要がある。</p>	C	<p>人事交流による教員の入れ替わりが多いので，仕事の引き継ぎが難しいと思われる。学校行事やPTA活動も以前のものをそのまま引き継ぐのではなく，年度ごとに新しいものを作っていくことも大切である。</p>	B	<p>学校行事を含めた業務の見直しをその年度ごとに新しく作り，学校とPTAが連携を図り，よりよい学校づくりをめざしていく必要がある。</p>

【資料：アンケート結果】

教員アンケート

I. 学習指導	
学習の取り組みについて、保護者に伝え、十分に理解が得られた。	45%
学習の取り組みについて、保護者に伝え、ある程度理解が得られた。	55%
学習の取り組みについて、保護者に伝えたが、あまり理解は得られなかった。	0%
学習の取り組みについて、ほとんど伝えられず、理解も得られなかった。	0%

II. 学級運営	
個に応じた指導について、学年に関わる教員や保護者と連携を図り、学年当初よりも改善することができた。	85%
個に応じた指導について、学年に関わる教員や保護者と連携を図ったが、学年当初とあまり変わらなかった。	15%
個に応じた指導について、学年に関わる教員や保護者と連携を図ったが、学年当初より芳しくない結果となった。	0%

III. 清掃指導①	
清掃分担場所の清掃方法の徹底ができた。	36%
清掃分担場所の清掃方法の徹底が概ねできた。	64%
清掃分担場所の清掃方法の徹底があまりできなかった。	0%
清掃分担場所の清掃方法の徹底が全くできなかった。	0%

IV. 清掃指導②	
子どもたちが責任をもって清掃活動に取り組めるように支援を十分にすることができた。	52%
子どもたちが責任をもって清掃活動に取り組めるように支援を概ねすることができた。	43%
子どもたちが責任をもって清掃活動に取り組めるように支援をあまりできなかった。	4%

V. 校内安全	
休み時間や放課後は安全に過ごすことができるよう指導した。	52%
休み時間や放課後は安全に過ごすことができるよう概ね指導した。	43%
休み時間や放課後は安全に過ごすことができるようあまり指導できなかった。	4%
休み時間や放課後は安全に過ごすことができるよう全く指導できなかった。	0%

VI. 下校指導①	
児童に下校時刻を守らせるように徹底することができた。	39%
児童に下校時刻を概ね守らせることができた。	61%
児童に下校時刻を守らせることができなかった。	0%

VII. 下校指導②	
周囲に注意しながら安全に下校させるように年間を通して指導することができた。	41%
周囲に注意しながら安全に下校させるように概ね指導することができた。	55%
安全に気をつけながら下校するように指導することができなかった。	5%

VIII. 保健指導①	
給食準備中の身支度や手洗いを指導し、多くの児童ができるようになった。	52%
給食準備中の身支度や手洗いを指導し、児童ができるようになった。	48%
給食準備中の身支度や手洗いを指導したが、できる児童が増えなかった。	0%
給食準備中の身支度や手洗いを指導しなかった。	0%

IX. 保健指導②	
ハンカチ・マスク・ティッシュを持ってくるように指導し、多くの児童が持つようになるようになった。	36%
ハンカチ・マスク・ティッシュを持ってくるように指導し、児童が持つようになるようになった。	50%
ハンカチ・マスク・ティッシュを持ってくるように指導したが、持つくる児童が増えなかった。	9%
ハンカチ・マスク・ティッシュを持ってくるように指導しなかった。	5%

児童アンケート

1. 学習について①（低学年）	低
学校の授業を楽しみ、自分から家で話をしたり、ノートを見せたりしている。	43%
学校の授業のことを、自分から家で話をしたり、ノートを見せたりしている。	22%
学校の授業のことを、お家の人に聞かれたら、話をしたり、ノートを見せたりしている。	31%
学校の授業のことを、家でほとんど話をしないし、ノートも見せない。	4%

1. 学習について①（中学年）	中
自分の思いや考えを書いたノートづくりを楽しみ、家の人にもノートをよく見せている。	40%
自分の思いや考えを書いたノートづくりをして、家の人にもノートを見せている。	42%
黒板をうつし、家の人にもノートを見せている。	13%
黒板もうつすことも不十分で、家の人にもノートを見せていない。	5%

1. 学習について①（高学年）	高
自分の思いや考えを書いたノートづくりをして、創意工夫することを楽しんでいる。	43%
自分の思いや考えを書いたノートづくりをして、創意工夫することを心がけている。	43%
自分の思いや考えを書いたノートをときどきつくっている。	10%
自分の思いや考えを書いたノートをつくっていない。	3%

2. 学習について②	全	低	中	高
勉強がよくわかって楽しかった。	75%	80%	77%	68%
勉強はわかったが、あまり楽しくなかった。	17%	5%	20%	24%
勉強はあまりわからなかったが、楽しかった。	8%	14%	3%	7%
勉強がわからないし、楽しくもなかった。	0%	0%	0%	1%

3. 友だちについて①	全	低	中	高
学級の友だちとさまざまな場面で、なかよく協力することができた。	72%	74%	70%	71%
学級の友だちとさまざまな場面で、協力することができた。	19%	17%	24%	17%
学級の友だちとさまざまな場面で、ときどき協力することができた。	8%	9%	5%	9%
学級の友だちとさまざまな場面で、協力することができなかった。	1%	0%	0%	2%

4. 友だちについて②	全	低	中	高
困っているとき、やさしくされたことに、よく気が付いた。	70%	77%	74%	58%
困っているとき、やさしくされたことに、ときどき気が付いた。	24%	19%	21%	33%
困っているとき、やさしくされたことに、あまり気が付かなかった。	4%	3%	4%	6%
困っているとき、やさしくされたことに、まったく気が付かなかった。	2%	1%	1%	3%

5. そうじについて①	全	低	中	高
担当の場所を、がんばって掃除してきれいにできた。	74%	66%	81%	76%
担当の場所を、掃除したがあまりきれいにできなかった。	24%	33%	17%	19%
担当の場所を、あまり掃除できなかった。	2%	1%	1%	5%

6. そうじについて②	全	低	中	高
いつも友だちと協力して、きれいになるように掃除をした。	67%	74%	71%	57%
だいたい友だちと協力して、きれいになるように掃除をした。	30%	25%	27%	38%
友だちと協力して掃除ができなかった。	3%	1%	2%	5%

7. 安全について	全	低	中	高
休み時間や放課後は遊ぶ場所を守って、安全に遊ぶことができた。	61%	57%	61%	64%
休み時間や放課後は遊ぶ場所を守って、けがに気をつけて遊ぶことができた。	28%	35%	26%	24%
休み時間や放課後は遊ぶ場所を守って、遊ぶことができた。	9%	8%	10%	10%
休み時間や放課後は遊ぶ場所を守ることができなかった。	2%	0%	3%	3%

8. 下校について①	全	低	中	高
周りの様子を気をつけながら、安全に下校することができた。	71%	74%	69%	69%
前とあまり変わらなかった。	28%	25%	31%	28%
周りの様子を見ないで下校をしていた。	1%	0%	0%	3%
安全に下校することができなかった。	1%	0%	0%	1%

9. 下校について②	全	低	中	高
下校の時刻を確認し、毎日守ることができた。	54%	53%	48%	59%
下校の時刻を確認し、守ることができた。	37%	40%	41%	31%
下校の時刻をあまり守ることができなかった。	8%	7%	10%	8%
下校の時刻を全く守ることができなかった。	1%	0%	0%	1%

10. 給食の準備について	全	低	中	高
もともと給食準備中の身支度や手洗いができていた。	71%	59%	71%	82%
給食準備中の身支度や手洗いができるようになった。	24%	38%	22%	14%
給食準備中の身支度や手洗いがあまりできなかった。	5%	3%	7%	5%

11. 持ちものについて	全	低	中	高
もともとハンカチ・マスク・ティッシュを持ってきていた。	67%	63%	65%	74%
ハンカチ・マスク・ティッシュを持ってくるようになった。	25%	34%	28%	13%
ハンカチ・マスク・ティッシュをあまり持ってこなかった。	8%	2%	8%	13%

保護者アンケート

I. 学年	全 校	低学年	中学年	高学年
数	581	195	190	196
回答率	91%	94%	92%	88%

II. 学習指導	全	低	中	高
本校の学習への取り組みについて、十分に理解できた。	52%	61%	50%	46%
本校の学習への取り組みについて、ある程度理解できた。	40%	34%	43%	43%
本校の学習への取り組みについて、あまり理解できなかった。	6%	5%	5%	9%
本校の学習への取り組みについて、ほとんど理解できなかった。	2%	1%	2%	3%

III. 学級経営	全	低	中	高
お子さんの学級担任の学級運営について、十分である。	50%	58%	49%	42%
お子さんの学級担任の学級運営について、概ね十分である。	39%	35%	37%	44%
お子さんの学級担任の学級運営について、やや不十分である。	8%	5%	10%	9%
お子さんの学級担任の学級運営について、不十分である。	3%	2%	4%	5%

IV1. 清掃活動	全	低	中	高
学校が前よりとても美しくなった。	32%	40%	37%	18%
学校が前より美しくなった。	41%	42%	39%	41%
前とさほど変わらない。	20%	13%	21%	26%
学校があまり美しいとは言えなくなった。	7%	5%	2%	15%

IV2. 清掃活動	全	低	中	高
責任をもって清掃ができるようになった。	7%	11%	7%	3%
概ね責任をもって清掃ができるようになった。	26%	32%	31%	14%
以前とあまり変わらない。	57%	52%	59%	60%
掃除ができていないとはいえない。	10%	5%	3%	23%

V. 校内安全	全	低	中	高
子どもの遊びにおけるけがが以前に比べて少なくなった。	38%	40%	41%	33%
子どもの遊びにおけるけがは変わらない。	58%	55%	54%	64%
子どもの遊びにおけるけがが以前より多くなった。	4%	5%	4%	3%

VI. 下校指導	全	低	中	高
周りの安全に気をつけながら登下校することができていた。	45%	54%	44%	36%
前とあまり変わらなかった。	47%	37%	50%	53%
周りの安全に気をつけながら登下校することができていなかった。	9%	9%	6%	11%

VII. 保健・給食指導	全	低	中	高
保健・給食指導の取り組みについて、十分である。	44%	53%	46%	34%
保健・給食指導の取り組みについて、概ね十分である。	46%	41%	46%	53%
保健・給食指導の取り組みについて、やや不十分である。	8%	5%	8%	10%
保健・給食指導の取り組みについて、不十分である。	2%	2%	0%	4%